

◆第1回～4回の検討委員会、  
保護者・生徒・教職員のアンケート調査結果、  
高知江の口養護学校PTA・教育後援会・同窓会との意見交換、  
高知江の口養護学校教職員との意見交換での主なご意見（抜粋）

【施設・設備について】

○慢性疾患の児童生徒に対応した施設・設備に加えて、心身症や不登校の児童にも対応した施設・設備の充実が必要

- ・別室登校ができる部屋やクールダウンができる部屋の確保が必要ではないか。
- ・グラウンドやプールなどの施設の整備が必要ではないか。

○寄宿舎の整備・充実が必要

- ・現在、寄宿舎は複数定員の部屋になっているが、プライバシーや発達段階を考慮して、個室も検討すべきではないか。
- ・共同生活の利点を考えると、100%個室にするのではなく、ケースバイケースで対応できるよう、複数定員の部屋も必要ではないか。
- ・生活リズムを整えたりする等のための教育入舎のシステムも必要ではないか。

【関係機関等との連携について】

○他機関との連携が必要

- ・慢性疾患、心身症等の精神疾患のどちらにも医療機関との連携が必要ではないか。
- ・医療機関以外の相談機関や福祉機関との連携が必要ではないか。

○児童生徒の病状によっては、看護師の配置が必要

○カウンセリング機能の充実が必要

○病弱特別支援学校について医療機関及び教育機関への広報・周知が必要ではないか

【専門性について】

○教員の専門性の向上が重要

- ・発達障害の児童生徒に対する教育対応についての専門性の向上が必要ではないか。
- ・慢性疾患に対する病識理解を含めた専門性の向上が必要ではないか。
- ・児童生徒の状態について見立てができ、その状況を理解し、児童生徒に対する学習をプログラムできる教員の専門性が必要ではないか。

- ・教員の専門性の向上のためには、発達障害・慢性疾患等についての講習や演習を定期的実施していくとともに、校内での効果的な実践例を教員間で共有する研修が必要ではないか。
- ・障害についての理解は、必要な機関と連携しながら、知識・技能の向上と併せて、カウンセリングマインドを身につけることが必要ではないか。
- ・教員の専門性を担保するためには、教員の在籍年数のバランスに配慮した組織づくりが必要ではないか。

#### ○センター的機能の充実が重要

- ・発達障害やメンタル的に二次障害が発症している児童生徒に対する専門性が重要ではないか。
- ・通級的な支援ができるような体制が必要ではないか。
- ・外部支援を担うための担当教員の養成と人材確保が重要ではないか。
- ・在籍年数が長い教員と短い教員とのバランスが重要であり、キャリアに応じた教員間での情報交換や学習会が必要ではないか。
- ・**教育相談やセンター的機能の期待が示されている。その中で引き継ぎとフォローが必要。慢性疾患の相談先として高知江の口養護学校に専門性をいかしてほしい。通常学級で支援が必要な児童生徒もいる。通常学級や特別支援学級の教員の専門性を高めるための専門性の高い教員の育成・確保も必要。関係機関の連携も大事。**

○就労を踏まえた自立と社会参加を考えると、「企業が障害のある人に求めるもの（花熊暁氏講義より）」の6項目を支援・指導できる教員の専門性が重要

**※ゴシック体の太字は、第4回の検討委員会で出された新たなご意見です。**